

放送用情報処理システム

要 旨

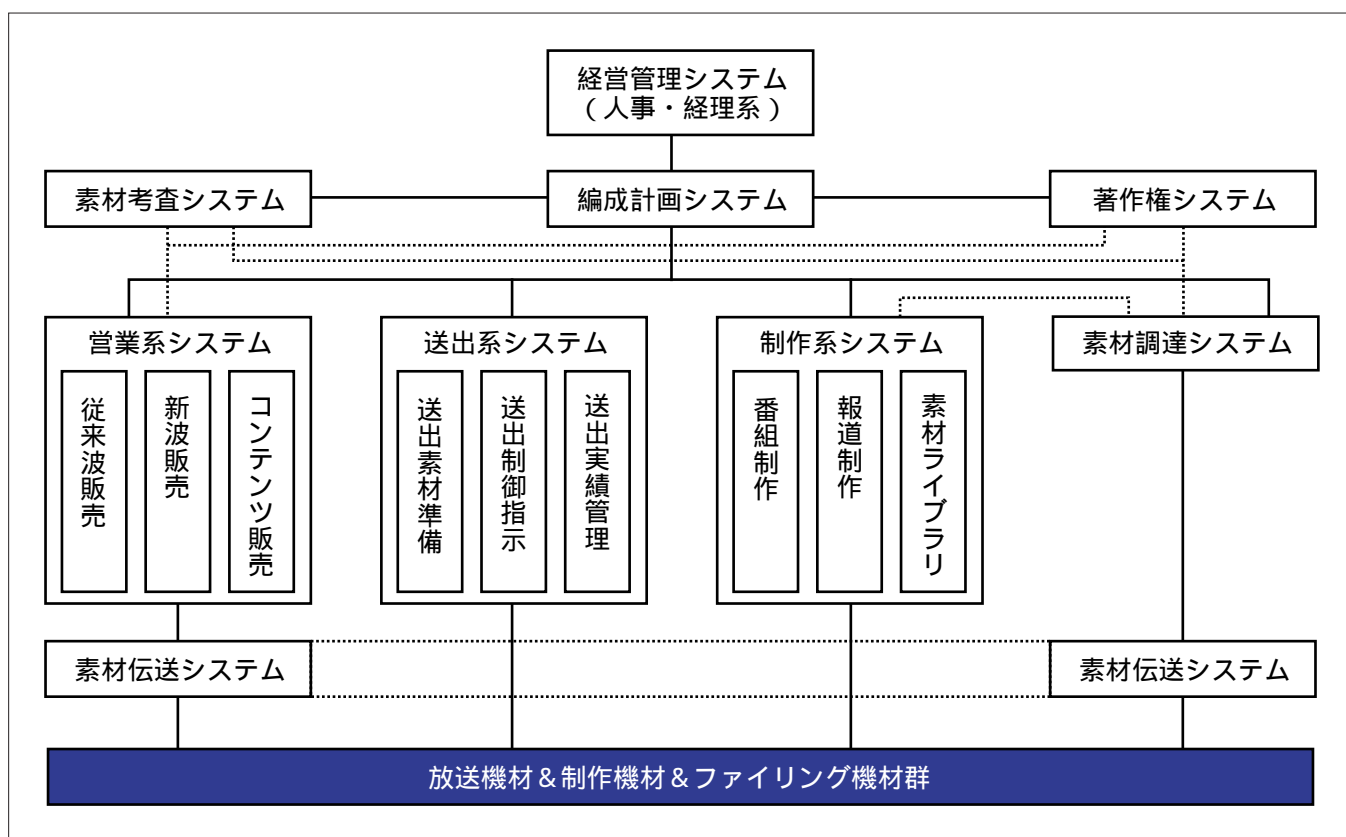
民間地上波放送局において、今後、BSデジタル放送及び地上波デジタル放送の到来で、多チャンネル化が進み、民間地上波地方放送局の経営形態が大幅に変ぼう(貌)することが予想される。

この多チャンネル化が、大量の素材の需要を生み出し、制作ボリュームの拡大を余儀なくさせる。これは言い換えると、放送枠が広がることにより、放送枠を埋めるための制作行為と、制作した番組の流通が一つのビジネスとして拡大していくことになる。

このような状況下で営業収益の向上を目指すには、現行の局内システムの合理化及び統合化、さらに、制作コストの最適化が放送局経営において重要なポイントとなる。

したがって、送出(スタンバイ)系に対して徹底的な自動化を追求するとともに、番組流通を意識した著作権の管理や損益の把握が容易な制作コスト管理を行い、さらに、制作現場の素材伝達の自動化や進ちょく(捗)管理、リソース運用を搭載した制作システムの追求が必要となる。

さらに、このようなシステムのキーテクノロジーとなる現場運用に対し、制作現場からの制作コスト情報、営業現場からの販売・売上情報、及び編成部門からの素材調達コスト情報を業務運用の結果としての吸い上げを可能にし、必要なときに必要な経営データが確実に把握できるシステム構築が求められる。



放送局用情報システムの全体像

放送局は、放送機材・制作機材・ファイリング機材に代表されるハードウェア、それらをダイナミックに運用するための経営管理・編成系・営業系・送出系・制作系で代表されるソフトウェア(情報処理システム)、及びそれを運用する人で構成される。